

第46回静岡県ユースU12サッカー大会 NTT西日本グループカップ 視察報告書

報告者：ユースダイレクター 石井知幸

- 日時：2014年2月2日（日）8日（土）9日（日）
- 目的：4種年代における選手育成課題の共有
- 報告対象者：4種年代を中心とした全種別指導者

□感想および提言

攻撃

▶ボール、ゴール、味方、相手を観る。特に相手をよく見てプレーを選択する力を伸ばす指導

県大会の3回戦以降の試合を観戦したが、意図もなく前線にロングボールを蹴り込むような試合はなかった。多くのチームは、選手がしっかり顔を上げ、ショートパスを多用したサッカーにトライし、また、チームによっては、選手の特徴を生かして、前線に早めにパスを送り、縦に速いダイナミックなサッカーをスタイルとしてプレーしていた。

しかし、プレーのなかでは、ボールを失ってしまう場面は当然あり、その原因を探ると、単純な技術ミスもあれば、受け手と出し手のタイミングの問題など局面によっていろいろと考えられる。ボール保持者は、顔を上げて（観る）作業を行っているが、選手には、何が見えているか？プレーを見ていると、味方を観る（感じる）ことは出来ているが、相手のポジションは、しっかりと観ること（感じる）が出来ていないのではないだろうか？と考える。パスをしようとした方向に相手を感じれば、プレー方向を変え（ターンスキル）新たな視野から、効果的な攻撃を仕掛け、また、パス交換の距離が長く、ボールの移動中、相手にカットされる可能性があるのであれば、1本経由するなどのプレー選択が必要になる。

簡単に習得できるわけではないが、日々の練習から、相手DFを観る（感じる）ように、選手に働きかける指導を、根気強く行っていきたい。

守備

▶選手自身が、状況に応じて守備の仕方を考えてプレーできる指導

県大会決勝トーナメントということもあってか、守備に関して非常に責任感のあるプレーが多かった。味方がボールを奪われた時から、しっかりと守備の準備をし、自分のマークへの意識もあり、中盤エリアでのルーズボールに対しても、体を張って恐れずにコンタクトプレーが出来ていた選手が多かった。しかし反面、失点をしたくない気持ちが、DFラインに多くの選手を抱えてしまい、中盤で相手をフリーにしてしまっている状態もあった。

守備に関して、課題としてあげれば、〔ボールを持っている〕相手の状況や、コート of 場所（中盤 両ゴール前 中央 サイド）によって、守備の仕方（ボールを奪う守備 ゴールを守る守備）を冷静に選択できるようにすることや、ドリブルに対して、フィジカルの要素で抜かれる局面は、この年代ではしかたないことだが、多くの選手と1vs1の練習をし、守備に必要な予測力、ステッピング（コーディネーション）を日々磨いてほしい。